

# FORUM REVIEW AF089

テーマ：日本の新時代ビジョン～「せめぎあいの時代」を生き抜く楕円型社会へ

講師：亀井 善太郎氏 PHP総研主席研究員 立教大学大学院  
21世紀社会デザイン研究科特任教授

日程：2021年1月14日



慶應義塾大学経済学部卒業。日本興業銀行、ボストンコンサルティンググループ、衆議院議員等を経て現職。内閣官房行政改革推進本部歳出改革WG委員はじめ、総務省、文部科学省、外務省等で、政策立案と評価を中心に政府の各種会議体に参画。NPO法人アジア教育友好協会理事（山岳少数民族教育支援）。

これからの社会や経済、政治のあり方について多角的に検討を進めるため、2018年5月に鹿島平和研究所とPHP総研によって「新時代ビジョン研究会」を立ち上げた。

実務者・有識者と研究会メンバー計24人による対話（図1）を重ねた。日本は「せめぎあい」の時代の真っ只中にある。「せめぎあい」とは、1 グローバル化と国家の台頭、2 工業化とデジタル化、3 新たなテクノロジーの積極活用とリスク社会化、4 ヒエラルキーとネットワーク（タテとヨコ）である。米中新冷戦やAI活用、デジタル格差、ソーシャルメディア普及など、社会体制の揺らぎと新技術の台頭等によって、影響されるが、せめぎあう要素がぶつかりあい、どちらに進むかわからない。時代のシナリオにうまく乗る対応ではなく、自分自身の意志と行動によって未来の姿、大きく言えば人類文明の姿が変わりうる、という自覚が必要ではないか。

具体的な行動では、既存の延長線の対応では成り立たない。PDCAをくるくる回す時間軸も圧倒的に加速し、朝令暮改すら当たり前かもしれない。

これまでの日本における東京に代表される一極集中の社会に代わり、複数の中心を持つ楕円型社会をつくっていくことが重要となる（図2）。すなわちローカル・企業・教育といった「場」を起点としたネットワーク型の関係性を創出する付加価値戦略が求められる。

- 爆発するルネサンス  
独立尚資 (BCGシニア・アドバイザー)
- 日本軍のパラダイムを考える  
戸部良一 (防衛大学校名誉教授)
- 国家を守る保険制度  
片山壮秀 (慶應義塾大学教授)
- 人間とテクノロジーを分けるもの  
長谷川眞理子 (総合研究大学院大学学長)
- AIは意味を扱えない  
西郷通 (東京大学名誉教授)
- 大学に—O兆円の基金を  
安宅和人 (慶應義塾大学教授)
- 日本版故宫をつくれ  
榎原 (現代美術家)
- 食こそ最強の観光ツール  
本田直之 (レバレッジコンサルティングCEO)
- ディープラーニングの実装  
長谷川廣一 (Preferred Networks最高業務責任者)
- 「わがまま」を認める会社  
青野慶久 (サイボウズ代表取締役社長)
- 「厳しい人本主義」への回帰  
伊丹敬之 (国際大学学長)
- 株主重視と社員重視のあいだ  
三品和広 (神戸大学教授)
- デジタルトランスフォーメーションの挑戦  
瀧崎英彦 (広島県知事)
- アジアのリーダー都市へ  
高島宗一郎 (福岡市長)
- 小さな世界都市をつくる  
片山健也 (ニセコ町長)
- 謎の国・日本を言語化せよ  
大庭雄祐 (慶應義塾大学教授)
- 同調責任を超えるエビデンス  
宮田裕幸 (慶應義塾大学教授)

図1 実務家・有識者との対話（全17回）

ヒト、モノ、カネが国境を越える活動があたりまえの社会

- 制度は問題ではない、現行制度の下でも「新たな価値」をつくる人はいる  
- 旧体制を壊すことにエネルギーをかけるよりも前向き
- 世界がどこに向かうかわからない時代には、一つの中心に偏ることがリスク
- そもそも、変化は「ローカル」から始まる（ザッカーバーグ）

円（一つの中心）の時代

楕円（複数の中心）の時代

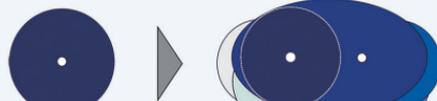


図2 せめぎあいの時代には楕円型社会を